

## 論文の内容の要旨

### バスク語アスペイティア方言の主要な動詞述語に関する記述的研究

吉田 浩美

本論文は、最も基本的な動詞述語である「動詞の分詞形+助動詞」という複合形、助動詞が動詞を伴わずに現れる場合、動詞が助動詞を伴わずに活用変化する単純について、分析・記述する。いずれも直説法を扱う。

第1章では、バスク語アスペイティア方言の音韻と文法の概要を示す。

第2章では、動詞述語の構造を概観し、助動詞の内部構造を認めるか否かについて論ずる。

第3章では「助動詞 du 活用が現れる複合形」を扱う。du 活用は基本的に「能格と絶対格が考えられる場合」に現れるが、「能格しか考えられない場合」、「絶対格しか考えられない場合」、「能格も絶対格も考えられない場合」にも現れる。各々について分析・記述する。

第4章では「助動詞 da 活用が現れる複合形」を扱う。da 活用は基本的に「絶対格のみが考えられる場合」に現れるが、「絶対格も能格も与格も考えられない場合」、「絶対格と与格が考えられる場合」にも現れる。各々について分析・記述し、また動詞の意味の問題にも触れる。

第5章では「助動詞 diyo 活用が現れる複合形」を扱う。diyo 活用は基本的に「能

格と絶対格と与格が考えられる場合」に現れるが、「能格と与格のみが考えられる場合」、「絶対格と与格のみが考えられる場合」、「与格のみが考えられる場合」、「能格と絶対格のみが考えられる場合」にも現れる。各々について分析・記述し、与格についても考察する。

第6章では「助動詞 *zako* 活用が現れる複合形」を扱う。*zako* 活用は基本的に「絶対格と与格が考えられる場合」に現れるが、「与格のみが考えられる場合」にも現れる。各々について分析・記述する。

第7章では、助動詞が動詞を伴わずに現れて繫辞的な働きをする場合を扱う。「絶対格ともう一つの要素と助動詞 *da* 活用が現れる場合」、「能格と絶対格ともう一つの要素と助動詞 *du* 活用が現れる場合」、「能格、絶対格、与格と助動詞 *diyo* 活用が現れる場合」、「4系列の助動詞のどれかが現れ得る慣用句的表現」について分析・記述する。このような助動詞をどう捉えるかという問題も扱う。

第8章では動詞の単純形について分析・記述する。

なお、助動詞は、単独で現れるときのみならず、動詞を伴う場合にも、動詞と、そこに関わる能格、絶対格、与格（のうちの一つ／二つ／全て／ゼロ）で表されるものとの関連づけて「まとまった意味」を完成させる「繋ぎ」の働きをされると考えられる。